

ナノファイバー果実袋発売

果実袋「ナノクセラフルーツバッグ」(同社提供)



繊維商社のヤギ(大阪市)は、通気性の高いナノファイバー不織布を使った果実袋「ナノクセラフルーツバッグ」を4月下旬に発売する。ブドウ栽培に使うと、不良果の原因となる熱や湿気を逃しやすく、品質向上が見込めるという。信州大学などとの共同で開発。実証試験では、紙製の従来品に比べて糖度や粒の大きさの向上、裂果・虫害の減少などを確認した。

ナノファイバーは、髪の毛の500分の1程度に当たる直径数十〜数百ナノメートルの微細な繊維で、衣類や医療分野などで使われている。紙より通気性は高いが、水は通しにくい性質が特徴。同社が発売する商品は、紙製の果

繊維商社と信州大など 通気性高め品質向上

実袋の一部にナノファイバー不織布を使い、通気性を高めた。

同社と信州大学は2021年に全国23カ所のブドウ農家と協力して実証試験を実施。「シャインマスカット」や「ナガノパール」など5品種でナノファイバーを使った果実袋を試したところ、紙製の従来品と比較して果実の平均糖度が3・4%上昇した。1粒の平均重量は11・1%増え、食感の良さに関わる粒の硬さも上昇した。

協力農家へのアンケートによると、裂果や縮果、日焼け果、虫害の発生も減少した。紙製の従来品では、袋内の湿度が上がりが、こうした被害が出る場合があったという。

製品は白と緑の2色で、品種や日当たりなどの栽培条件によって使い分ける。サイズは縦315ミリ、横220ミリ。価格は3000枚入りで5万4000円。500枚入りも用意する。4月下旬に、同社の直販サイトで数量限定で販売する。